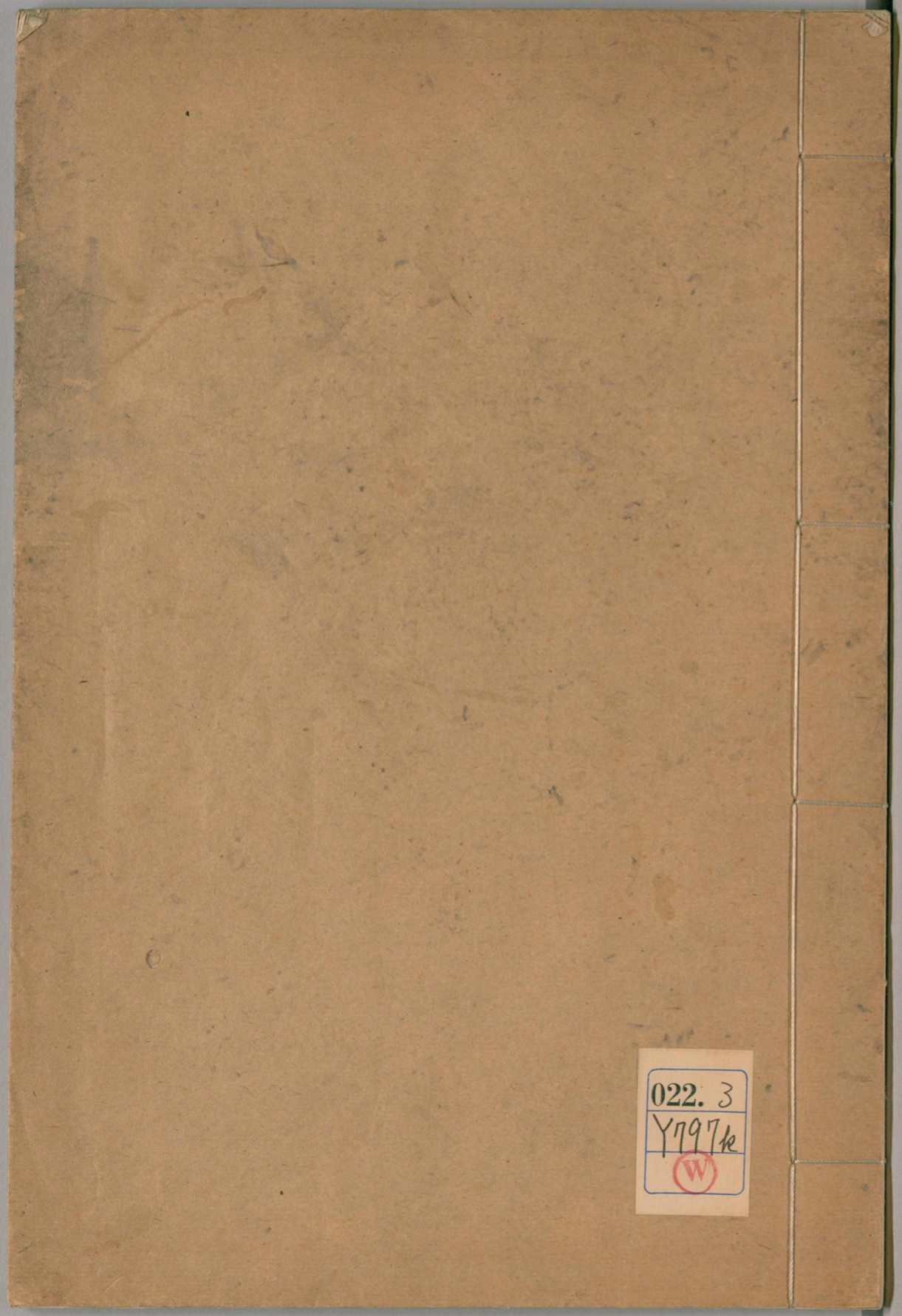
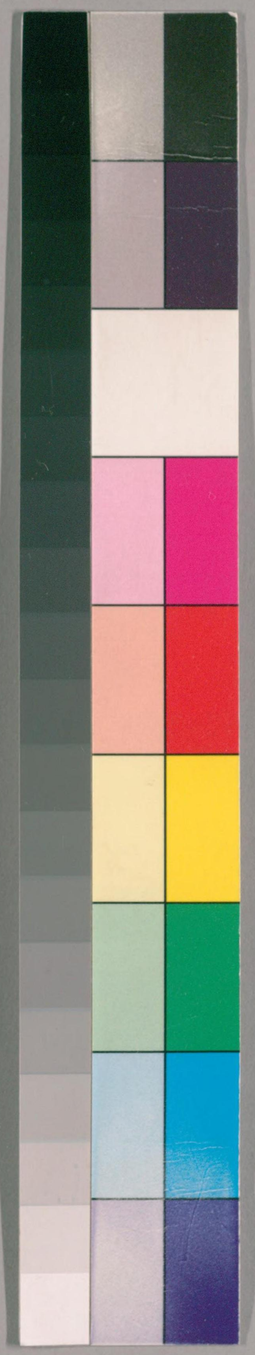


022. 3
Y797k
W



国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用

022.3
Y797k

國立國會圖書館藏書

活版經籍考引

今茲春、初撰二活版經籍考一、既削藁矣、自レ春涉レ夏所レ閱益多、更有下出二于前疏之外一者上、隨レ見補入、然未レ能レ盡、蓋刻雖レ同、摺有二新舊一、則取レ原不レ一、而文茲有レ異、取レ原雖二一版一、或取二諸他刻一、則體不レ均、而字樣遂別、是活版之所二以愈出而愈不一レ窮也、昔人論二蘭亭一、有二五字損一、有二五字不レ損、而又有二五字未レ損而蘭亭文焉、活版全類二乎此一、要レ之經本二派一、一曰、皇朝之舊傳、二曰、北宋鋟本、是活版之昭穆、猶二敘爵一之石刻本諸定武、臨影本諸

336277

国立国会図書館
29.7.22
図書館

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用

硬黄一也、究二其源一推二其流一、聚訟可レ解、考二活版一者、當下如レ論二蘭
亭一斯得レ之矣、

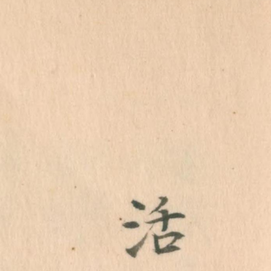
戊申仲夏

篁墩安重修識

活版經籍考

留蠹書屋雜著抄錄

篁墩　吉安資坦纂錄



中夏の書に活字の事見えしは、宋の沈括が夢溪筆談に出たる慶暦中の人、畢昇泥を製して之を草火にて煅て印したるをもて初とす、其後明の陸深が金臺紀聞にも記せし事あり、近き頃清の康熙帝圖書集成を輯められしに、銅字の活版にて成されしこと、乾隆帝四庫全書を編輯せられしとき、先朝の故事に倣ひ、木の活字を用ひ、改め名けて聚珍板とせられし事、會々帝

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

の自序し給ふ所に見えし、但前に出せし沈括・陸深等が説をも載られて、是二者活版之權輿たるよし述べ給へり、安、更に考るに、元の王禎が農書を其世の末に刻せし時活版にて印し、且輪車をもて字を取るの法など載て其書の末にあり、又明の胡應麟が筆叢に畢昇が事を錄して、今は泥をもてすることはなくて木にて作る由みえき、之によれば活版の法宋に始まれるの後、元、明の二代も講じ行ひし人ありけん、清に至りて二大叢書專ら活版を用ひ、其事を掌れる臣金簡其法を詳に圖して錄せしものあり、爰に於て活

版の法精緻にして又遺憾なきに至れり、
本朝に活版の行はれしこと殊に久しく且盛なりき、
其始めて作り出せし時代はいつにや未だ考へず、但
室町家中葉の頃より盛に行はれたるべし、其一證を
いはば、應永の初め頃歸化の明人某なる者あり、京師
にて五百家註韓柳集を活字にて印せし本あり、支干
のみ記したれば其年代詳ならず、予が嚮に見たる一
本には、應永七年博多僧某なる者の校點して題字あ
りたるものあり、此七年より遡り考ふれば、其支干正
に應永三年に當れり、是中華にては明朝洪武の季年

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

なり、されば吾邦活版の權輿は、元・明の活版の遺法を得たる明初の人本朝へ歸化して、此集を印行したる如けれど、之よりさき南朝の正平中に和泉國堺浦の道祐居士といふ者論語集解を刻せり、其本中華へも傳へ到りて、清の錢簡が談書敍求記にも載せたり、其末に、堺浦道祐居士重新命工鏤梓正平甲辰五月吉日謹誌と題す、其字畫行款第二卷（二卷關本）に記せし六行罫欄四大字の活版本と分毫を差へず、これによるに道祐自ら跋して重梓とす、知るべし、この活版本は、道祐が原本たることを知る、斯のごとくむば室町家の世よ

り猶先ちて起れりと云べし、若くは北條氏の時北條顯時が如き學を好み、武州金澤の地に書院を開設し、經師を延て業を講じ、文庫を造營して廣く四部の籍を儲へ藏めし時、活版行はれしにやと、活版の論語殊に多く關左の地に存せるを以て推知せらる、之を後に道祐が泉南に重鐫せしにや、さもあるべきなし、たゞ此活版が正平本の原にして、北條氏の時に出たることは、時代に徵して明なり、活版醫書大全の跋に、前に儒籍を印せしかど未だ醫書を印せし事なし、醫書を印すること此書をもて始とすと、是

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

大永の頃なりき、之に依て考ふるに、活版は北條氏の世に起源し、室町氏の時に盛んなりしとすべし、猶後の考据し得る所あるを俟つ、

活版の經書世人概して足利本と名く、是下野の足利學校にて印せしことのありしを傳へて斯は云なり、今も足利に活字版數百枚殘れり、支人日下部偶東氏其地に遊びし時、數字を印揚し來りしを見しに、字體縮小にして今存在せる諸書に合せず、自ら別物なり、足利學校は上杉安房守憲實が再興以來盛大なりしよし、鎌倉大草紙に見ゆ、故に經書を印せし事もあらん、然れども其流傳廣からぬにや、慥に足利本といふもの未だ經見せず、今世に存し行はるゝものは悉く洛京の舊本なり、

活版の諸經書多くは北宋本を原として寫し作れり、獨り原文を取りたるのみならず、字畫行款も亦宋樣を規模せり、其北宋本に原きたる證は、每卷末に經幾百幾十字、註幾千幾百字と記せり、是北宋本の左券たる事は、清の枕形が周官錄田考にも記し置けり、予が見し所も南宋本の穀梁傳には、此字數ある事なし、枕形が說信すべし、是しかしながら隋唐の舊式に

336277

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用

て、古人經傳を愼重せる至意を見るべし、北宋は時代接近せるを以て其式尚存せり、南宋に至りて既に忽遺せり、活版の諸經此文あるものは、北宋本の嫡嗣なること明なり、又古活版の尚書に胤恆の二字闕筆に屬せり、其餘はこれなし、これ胤は宋祖宋宗の諱、恆は眞宗の諱字なり、闕畫此二字に止まれば又宋初の本に原きしこと明なり、李建中が書せし千文に此二字を闕書せしを、文徵明これを證として定めたると說を同じくす、是二ッの證なり、但中華に久しく逸して本朝になせるなり、

孝經孔傳等の活版本に至ては、元より明經宗の遺本を寫したるべければ此例にあらず、又活板と雖もや後世に出たるものは、本を南宋本に採たるもあり と見えて、闕諱の字廣く南宋の諸帝に涉れり、總て思わに、古活版本北宋本に、淵源せし事は既に知ぬべけれども、此活版の經籍洛京にてかく印し行ひしことは、當時搢紳博士の擧に出たる歟、又は書佐の爲に成たる歟、夫等の事はいまだ徵し考る所あらず、本朝の古へ遣唐の使を發し、留學の員を置き、聖人の道を中國に學び求め給ふ時に方りて、五經諸部唐朝

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

の傳本齎し來りし事はもとよりなり、世代替降して千載の後の今に至ると雖も、世家故室などは存し傳ふる者なからざらむや、ひとり是のみならず、謹で學令を按ずるに、易は鄭玄、王弼を兼習し、尚書は孔安國、鄭玄二家、春秋左氏は杜預、服虔兩家を並學すと定めらる、此等の諸家當時具存せしことは云に及ばず、何れの頃よりや王・孔・杜の三家のみ單行して其餘は廢れぬ、活版の諸書四五百年前に出たりと雖も、猶既に逸して世に行はれざりしにや、鄭・服の諸註はあることなし、中國は唐の太宗、孔穎達に命せられ、五經の義疏を作らしめらる、時、易は王に依り、書は孔を用ひ、左氏は杜に從ひ、天下に頒行して、學士是に據りて式を取るといへば、其餘の註家は次第に廢れてもて行くも理なり、

本朝の先生遙に兩漢の成法を追ひ給ひて、衆字を纂宮に兼備へ給ふとぞ云へけれ、然るにかく廢逸して中古の世にたに見ることなきは、其故なかるべからず、今之を思ふに、中古の世王綱紐を解てより、經籍の息み暴將強臣兵を構へ權を爭ふの時にあたり、學士離散し、遇〻一經を家に抱く者あるも、終身學用の地な

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』 請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

く、人亡びて書また亡び、久しくして其傳を失ひしなるべし、室町氏の時に至り、海内統一ならずと雖、稍く少康と稱しつべき時、經籍の道稍く興起するに及んで、唐宗の傳本既に存すること稀なれば、給を宋本に取らさることを得ず、是活版多く宋本に原づける故なり、既に宋本に倚頼す、鄭・服の諸家或は亡び或は隱れて、吾邦に來るものは今の諸註のみなり、是予が久しく疑蓄へて後に思ふ所なり、活版の諸經註の本北宋の槧本を寫してなせし事は、已に前に記り、然るに此原となせし宋本は素より經註の本を影寫せし

や、正義の諸本より鈔撮してなせし所なりやと考るに、疏本を撮略せし者にはあらで、素より經註の宋刻を其儘に寫せしものなり、吾邦の古へ明經の儒先經傳の承受を深く重んじ守りて、國訓の片言隻音をたに妄りに增減せず、これ予が宋家に藏めし明經家の校點せし古本を見て知る所なり、況や敢て擅に改撰し作れることは、もとより曾てあらさることなり、宋諱の字畫をたに改め增さずして、其儘なるを見ても知りぬべし、且宋の九經の諸刻多くは、註本にて疏を具せし本にはあらさりしことは、宋の岳珂の九沿

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』 請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

事を考へてしるべし、今の人明刻の諸本を見るに狃れ、九經は必疏を具して刻せりと思ふは、古本の經書を載たるもの凡四部周易・毛詩・左傳・公羊なり、みな經註本なり、其周易を錄せしは周易十卷、北宋刻本經經傳一之卷六、王弼註繫傳七之八、說卦序卦雜卦九、韓康伯註略例十刑琦註と是全く洛京舊印活版を同一にして其原を取し祖稱の本なり、されば中華には宋刻の諸本を字樣行款を違へず、其儘に臨書したる本を影宋本と云なり、此影の字は總て引寫しのことにて、唐の太祖の櫪遂長に命じて、古碑を影寫すといふ事より出たり、此事を碑帖の文字に、傍書釋文することとなりと明の升庵楊氏はいひけれど、影響義に依て臨摹のことに適へるをもて、總てありの儘に寫したる本を影宋などいふこと、錢簡が談書敏求記金蘭客が古經解鉤沈等の書に出たりき、されば此活版本も鈔と印搨との別はあれども、宋本を其儘に模範せしこは同一なれば、之を影宋本と稱せんもまた不可なる事なかるべし、

五經註疏の宋本は、足利學校に存する上杉憲實父子が寄附せし五經正義、海内に烜赫たる籍なりと雖も、

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』　請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

予が陋見にては南宋槧本なり、予が經見せし宋籍は
友人堀口貞結が藏めし尚書正義十冊談耕林氏の故物
にして、宋瑞拱元年の本を影せし古鈔本なり、又門
生某が家に、公羊傳註疏宋槧本あり、富弼、文彦博諸
人簡首に連銜ありて、古香艶菱絶世の寶籍なり、凡
北南二宋本の差違のこと、源流多岐にして議論區々
なり、且五經正義は孔穎達が貞觀中に詔を奉じて諸
儒と撰定せしより後、永徽中更に長孫無忌諸臣の刪
定に成り、宋初國子司業孔維等の是正を經て今に至
たり、其陸德明釋文を加へしは、素より唐の時にては

なかりしなり、此宋本に、各巻末に置たる本あり、南
宋に至りては各章の下に分置せり、是已に古きを失
せり、其他南宋の北宋本に及ざる事多し、明の十三
經の諸刻に至りては鹵莽杜撰最も云に足らず、總て
是等のことを詳に記さむことは、事極めて長くして、
且活版の事にあらざれば省きつ、予が草せしものに、
留蠹書屋儲藏志十巻あり、上は別録七略を學び、中は
崇文總晁陳が諸録に效ひ、下は百川書志讀書敏求記
の意を用ひ、敢て其固陋を忘れて、一書毎に解題を作
り、其中に審に徵し、委しく録したれば爰には略し

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』 請求記号 022.3-Y797k
ガラス使用

活版經籍考

終

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』 請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』 請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『活版経籍考』 請求記号 022.3-Y797k

ガラス使用